

# 本との出会いを楽しむ 第22回

## 読書は人生の羅針盤

サンライズ産業株式会社取締役相談役 行政書士 尾崎 善造



自宅の本棚の奥に忘れさられたように積まれた学生時代からの本があります。乱読した岩波新書の塊で「学生に与ふる書」から溪流釣りにハマリ「イワナの謎を追う」、「クマに会ったらどうするか」まで、新刊書が発行されるたびに、ジャンルに拘らず読破しようと意気込んでいた頃の残骸です。当時知識欲は旺盛でしたが体系的には読み込んでいなかったことの証です。ただ、これまで好き勝手に読んだことで、読書の楽しみを知りました。

中学時代は、「狭き門」、「車輪の下」、「路傍の石」、「あすなる物語」などに感動したものでした。これらの本を友人に譲り渡した時の笑顔が今でも思い出します。大学生時代(昭和41年代)は「考えるヒント」、「想像力の問題」(サルトル全集12巻)、「甘えの構造」、「春宵十話」、特に「釣魚大全」アイザック・ウォルトン著は古典的な名著で、釣りのマナーのみならず金言集でもあり、是非お勧めしたい一冊です。とりわけ法哲学の「法の究極に在るもの」尾高朝雄著は極めて示唆に富む名著でした。

社会人になってからは、ノンフィクションや歴

史を舞台にした吉村昭著に凝り、「破獄」、「磔」、「三陸海岸大津波」などの外、司馬遼太郎著の「街道をゆく」の全巻を読み、「十津川街道」ではその歴史的な背景に興奮しました。とりわけ「北のまほろば」では、弘前公園の天守閣は岩木山と言われ、その表現に感心したものです。また、「オランダ紀行」では、大学同級生の後藤猛君がオランダ博士として登場していることを知り驚きました。

かつて、数年間国家資格試験の受験浪人後、地方公務員となり、弘前市立図書館の図書購入責任者として、年間数百冊の書籍を十進分類法に基づく分類のために読み込み、教養書の深淵を垣間見た気がしました。専門分野を問わず多くの分野の世界に入ることが、人生の転機を迎えた時の選択と決断に繋げるのが本の力ではないかと思います。

良書、悪書と言われる書籍を思いのまま読み進めることが人生の糧になるのではないのでしょうか。ちなみに若い頃伝記「平生鈔三郎伝」にある「人生三分論」に心酔したひとりでもあります。最近「石田三成と津軽の末裔」佐賀郁郎著(旧制弘前高校卒業)をドキドキしながら読みました。

参考 拙著「地方議会の12か月」学陽書房  
(おざき ぜんぞう)

### 弘前大学附属図書館で所蔵している関連図書

- ・「破獄」吉村昭著 本館和図書(書庫) 999||Z9||Yo ID: 20000738 他にも著書所蔵有。
- ・「想像力の問題」サルトル著(「サルトル全集」12) 本館和図書(書庫) 950||63||16
- ・「法の窮極に在るもの」尾高朝雄著 本館和図書(書庫) 321.1||017 ID: 00057040
- ・「北のまほろば」司馬遼太郎著 本館開架図書 915.6||Sh15 ID: 06736962 分館も別版有
- ・「石田三成と津軽の末裔」佐賀郁郎著 本館開架図書 288.2||Sa15 ID: 06770874
- ・「地方議会の12か月」尾崎善造著 本館開架図書 318.4||096 ID: 08240480

附属図書館ではサンライズ産業(株)様からのご寄付により、地域を対象とした課題解決や地域のリーダー育成に役立つ資料として様々な図書・雑誌を整備しています。サンライズ産業(株)様の寄付図書・雑誌は本館2階に配架していますので、ぜひご利用ください。